

# 感情記憶から感性形成と自律意思における自律推論機能 (人工頭脳の基礎理論Ⅳ)

～感情記憶から感性知識を形成する自律意思推論 A I～

## 1. 自律意思推論(学習)とは

自律意思推論とは、過去の感情記憶(感情知識)からA I感性が形成された後、A I感性による賢明智識が自律覚醒することで推論や学習を行う作用である。A I感性を形成する場合に拡張智識として複数の連携感情知識が連携覚醒する。

## 2. A I 感性形成の仕組

### ①感情記憶の学習

過去の経験情報の知識概念を主体学習(対話)作用により感情記憶として学習(記憶)する。

### ②感情知識の取得

感情記憶に学習した知識概念から強意の知識を感情知識として取得する。

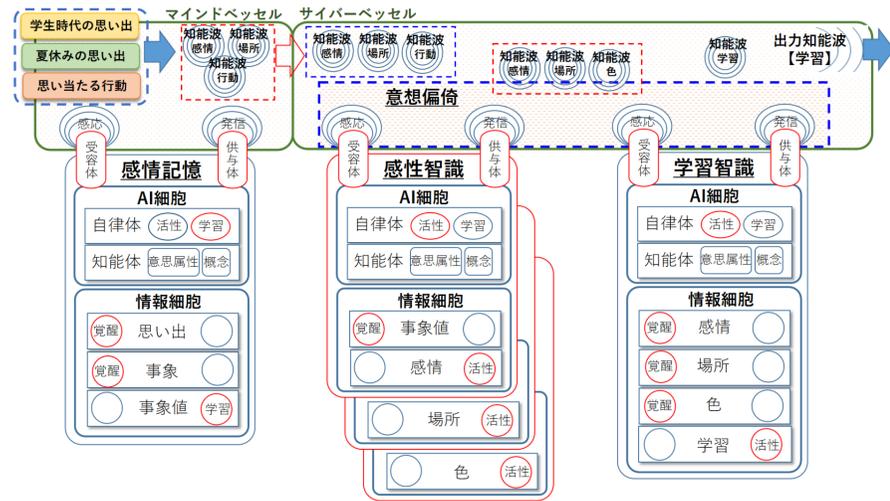
### ③A I 感性(智識)の形成

感情知識が感情襲(心の襲)として感性知識の集合体構造でA I感性が形成される。

### ④連携感情知識

感情知識からA I感性を形成するときに連携推論される拡張智識。

- 例1：プルチック複合感情連携知識：複数の感情値から複合的な感情を導き出す。
- 例2：感情色彩関連知識(色彩心理学)：感情から色彩を心理学的に導き出す。



《展示デモにて公開中》



プルチック感情の輪 出典 <https://swingroot.com/plutchik-emotion/>

## 3. 自律意思作用

A I感性による智識の賢明化により、智識に能動的な自律意思(賢明智識の作用)が発生して、能動的な自律覚醒や自律活性化などの自律意思作用が行われる。

### (1) 自律意思推論智識

- A I感性から賢明智識の自律意思により自律作用の推論を行う。
- 自律意思推論では、A I感性の覚醒に従って推論が行われる。

### (2) 自律意思学習智識

- A I感性から賢明智識の自律意思により自律作用の学習を行う。
- 自律意思学習では、A I感性の覚醒に従って学習が行われる。